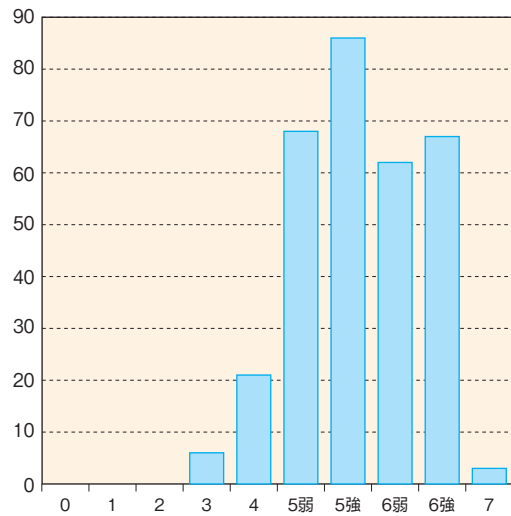


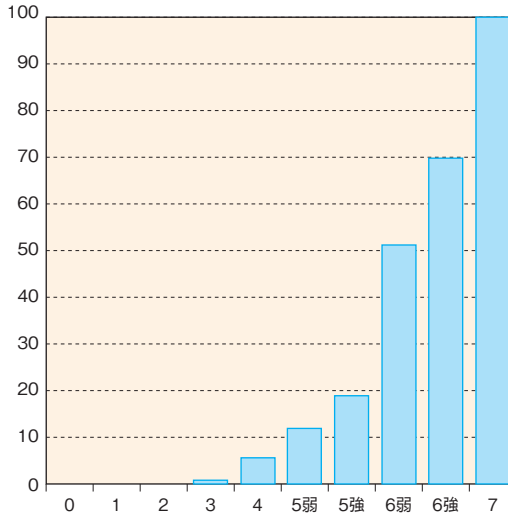
## 2) 震災関連調査

### (2) 地震震度と透析室操業不能の有無、操業再開日 (図表27)

(件) 地震震度別の透析室操業不能施設数



(%) 地震震度別の透析室操業不能の割合



透析室操業不能の有無

操業不能の有無	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計	不明	記載なし	総計
なし	1,098	183	228	714	351	502	369	59	29	0	3,533	155	22	3,710
(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(99.2)	(94.4)	(88.1)	(81.1)	(48.8)	(30.2)		(91.9)			
あり	0	0	0	6	21	68	86	62	67	3	313	1	0	314
(%)				(0.8)	(5.6)	(11.9)	(18.9)	(51.2)	(69.8)	(100.0)	(8.1)			
合計	1,098	183	228	720	372	570	455	121	96	3	3,846	156	22	4,024
不明	3	0	0	1	0	2	0	0	0	0	6	4	0	10
記載なし	13	3	2	1	2	2	0	1	0	0	24	1	146	171
総計	1,114	186	230	722	374	574	455	122	96	3	3,876	161	168	4,205

操業再開日 (※3/11を1日目とする)

操業再開日 (日目)	1~	3~	5~	10~	20~	30~	60~	90~	120~	合計	記載なし	総計
青森県	10 (55.6)	8 (44.4)	0	0	0	0	0	0	0	18 (100.0)	2	20
岩手県	8 (66.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	1 (8.3)	1 (8.3)	0	0	0	0	12 (100.0)	1	13
宮城県	5 (11.1)	15 (33.3)	16 (35.6)	4 (8.9)	2 (4.4)	1 (2.2)	1 (2.2)	0	1 (2.2)	45 (100.0)	0	45
秋田県	10 (55.6)	8 (44.4)	0	0	0	0	0	0	0	18 (100.0)	0	18
山形県	9 (69.2)	4 (30.8)	0	0	0	0	0	0	0	13 (100.0)	1	14
福島県	12 (35.3)	5 (14.7)	6 (17.6)	4 (11.8)	2 (5.9)	1 (2.9)	1 (2.9)	0	3 (8.8)	34 (100.0)	1	35
茨城県	16 (32.7)	22 (44.9)	7 (14.3)	1 (2.0)	3 (6.1)	0	0	0	0	49 (100.0)	3	52
栃木県	14 (58.3)	8 (33.3)	2 (8.3)	0	0	0	0	0	0	24 (100.0)	2	26
群馬県	6 (85.7)	1 (14.3)	0	0	0	0	0	0	0	7 (100.0)	0	7
埼玉県	10 (83.3)	0	2 (16.7)	0	0	0	0	0	0	12 (100.0)	0	12
千葉県	14 (73.7)	2 (10.5)	3 (15.8)	0	0	0	0	0	0	19 (100.0)	2	21
東京都	9 (69.2)	3 (23.1)	1 (7.7)	0	0	0	0	0	0	13 (100.0)	1	14
神奈川県	28 (93.3)	2 (6.7)	0	0	0	0	0	0	0	30 (100.0)	0	30
山梨県	3 (100.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (100.0)	0	3
静岡県	3 (100.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (100.0)	0	3
愛知県	1 (100.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (100.0)	0	1
合計	158 (52.5)	79 (26.2)	38 (12.6)	10 (3.3)	8 (2.7)	2 (0.7)	2 (0.7)	0	4 (1.3)	301 (100.0)	13	314

#### 解説

震災の経過中何らかの理由により一日でも透析室の操業が不可能となった施設は、全国で314施設に及んだ。東北、関東ではすべての県で操業不能の透析施設が存在し、その比率は宮城県で83.3%、茨城県は65.8%、福島県が56.5%であった（割合は、操業不能の有無について回答があった施設数から算出）。東北、関東以外の地域では山梨県、静岡県、愛知県にも操業不能施設が少数みられたが、北海道には操業に支障を来した施設はなかった。（図表29参照）

地震震度別で検討してみると、震度3の施設においても操業不能が6件生じていたが、震度3全体の施設の0.8%であった。一方震度6弱では51.2%、震度6強では69.8%、震度7では100%と地震震度が大きくなるにつれて操業不能となる施設の割合が増加した。

透析室の操業不能に陥った施設は314施設であったが、その半数は震災の翌日には回復し、約8割の施設は震災から4日目までに操業が再開されていた。